

## 武士道

日本思想の解説

BUSHIDO:

The Soul of Japan

新渡戸稻造著  
矢内原忠雄訳  
李 登輝解題

## 第十章 武士の教育および訓練

The Education and Training of a Samurai

武士の教育において守るべき第一の点は、品性を建つ事にあり、思慮、知識、勇氣等の知的能力は重んじられてゐる。知的優秀はむろん賞められた。しかし勇さも、知性を表現するためか用いられる「知」という語は、主として宿智を意味していたのである。知識には極めて付隨的的で地位が与えられたりに過ぎないであつた。

武士道の骨組を支えたる鼎足(三脚)は、智に勇と義と称せられた。武士は本質的に行動の人であつた。専門は彼の活動の範囲外にあつた。彼らは、武士の職務に関する限りにおいて、これを利用した。宗教と神道とは僧侶に任せられ、武士は勇氣を養うと役立つ限りにおいてこれに携つたに過ぎない。）中略

武士道教育における教科目は主として剣術、柔術もしくはヤカラ・馬術、槍術、兵法、書道、文書が主なる事尊崇され、戦士として最もも驚くに足りぬ、とある。これらの中、書道と柔術については少々説明が必要である。能書に重きを置いたのは、おそらく我国の文官が絵画の性質を帯び、したがって芸術的価値を有した故であつた。また筆蹟は人の性格を表わすと言ふものから、柔術は簡単に定義すれば、攻撃、防禦の目的に解剖学的知識を応用したこと。筋肉の力に依存しない点において角力とは異る。その特色は、敵の身体の或る箇所を掴みもしくは打ちて麻痺せしめ、抵抗する能をもつとしている。この目的は、殺すことなく、一時、活動するに能をもつとするにある。

武士道は非經濟的である。これは貧困を誇る。「武士の德政の名譽」には、利益を得て汚名を被るよりは、摸王選ぶ(ローマの武将Ventidius - 38BCの言)トニ・キホーテ Don Quixote(スペインのセビアンテスの諷刺文学のなかの人物)は、黄金や領地よりも、情けに似る槍、骨に皮ばかりの馬に、より多くの誇りを抱いた。彼は金錢そのもの一それを儲けまいとは慕る者を賤んだが、それだけにしては、利潤を利益であつた。古代の頃は、金銭を貰うと費用諸は、「文臣は金錢を愛し、武臣は命を愛し」といひ方であつた。諷諭に曰く、「就中金錢の欲を思ふべからず。富めるは智の害なり」と。この故に兒童はまたく經濟を無視するに養育せられた。經濟のことに対するは、悪趣味味があつて考へられ、各種貨幣の価値を知らざるは、教育の良否と言ふべからず。

左側に、武士道は「貧困を誇る」とあります。古諺に「武士は食われど高揚也」。むかしの武士は腹がへつても、胸を張つて、大道を闊歩しかねません。おひでの政治家は「井戸七屏」である由。維新の志士や明治の政治家たち、1945年までの諷諭而破帽の営業たちに、「諷諭は貴し」の氣概を見聞しました。

今ならば、主として教育の研究によつて助長せられた種類の知的訓練は、文章讀解と倫理学的討論によつて与えられた。教育の主目的は、すなはて、品性の確立にあつたから、抽象的問題の思考の心が懐疑的では稚拙であつた。単に博学多才をもつては、多くの貴族者を多得ない。ベーコン(Bacon Francis 1561-1626(イギリスの哲学者・政治家))が、學問の三つの効用といふと挙げたは、积累、論述、能力の中、武士道は最高の能力に対する決定的優先性を有し、その實用は「判断と事務の處理」にあつた。公爵の外理山せよ、堀川の練習にせよ、實際的目的を眼中に置いて教育は施されたのである。孔子曰く、「学ん思ひたまはすうち困る。思ひ学ばざればすむか如也」(論語)と。

今年の大河ドラマ「龍馬伝」面白い。龍馬の工工のはあひつあらが! 岩崎弥太郎の波瀬万丈に感動する。

ヤマト運輸の小倉昌男氏20年を振り返る。物流宅急便の市場の急速は今も過む。今月の日経新聞の「私の履歴書」のユニチャーム会長の高原慶一朗の自伝、「紙おむつ」の発想から市場開拓に現代マーケティングの規範を感じます。

## 施工時間を大幅短縮

SEKISUI オリーブキャッチャー

「オリーブキャッチャー」は、当社との因縁が深い。オリーブ孔、当社は孔穴穴孔を追求20年。『オリーブメイト』『オリーブルミー』は当社の看板。『オリーブキャッチャー』は、積水、近年の新商品。その「紙おむつ」的看板は、独立派です。

別途カタログ御参照下さい。

また改良を重ねて最近、45度化粧斜用を開発されました。当社の新商品が増加。当社のニッチメイトは、品質が豊富な次第。

武藏教白

知識と品性が、頭腦とく霊魂が、最高修業の精神といつて選ばれる時、教師の頭脳は神聖な性格を帶びる。「我を生みしは父母也。我を人たらしむるは師也である。」この観念をもつておられた故に、師たる者の愛くる尊敬は極めて高くあつた。かゝる信頼と尊敬は、青少年より喚び出される人物は、必然的に優れたる人格を有し、かつ常識と兼ね備えておかなければならなかつた。彼は父兄の父兄の助言者であつた。彼は口く「父母は天地のこと、師君は日月のこと」(宋清松)と。

あらゆる種類の仕事をして、報酬と与えられた現代の制度は、武士道の信奉者の間には行はれなかつた。金錢をく価値をくこのみをもつて仕事のあることを、武士道はそれを信じた。傳授の仕事にせず、教師の仕事にせず、靈的の勤労は金錢をもつて支持はせざつた。価値がないといつてはいけない。評価しないでさへござつた。二の点において武士道の非常術的な名譽の本體は、近代経済学以上に真正なる教訓を教えたのである。弟子が一年中あるのは季節に、食品を師に貢ぐのは慣例上認められたが、これは支払はなくて構成げ物であつた。